

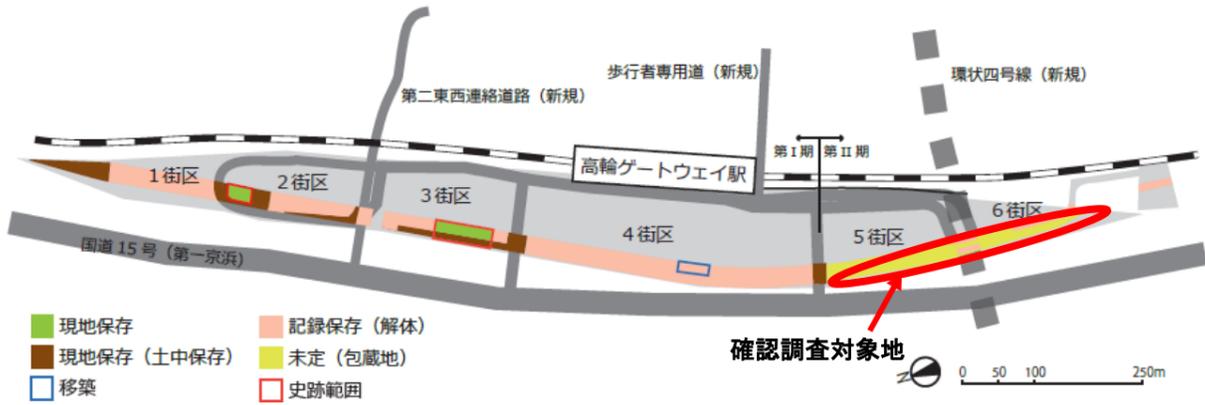
# 高輪三丁目地内における確認調査速報

令和6年11月1日現在

調査主体：港区教育委員会

調査協力：東日本旅客鉄道株式会社(JR 東日本)

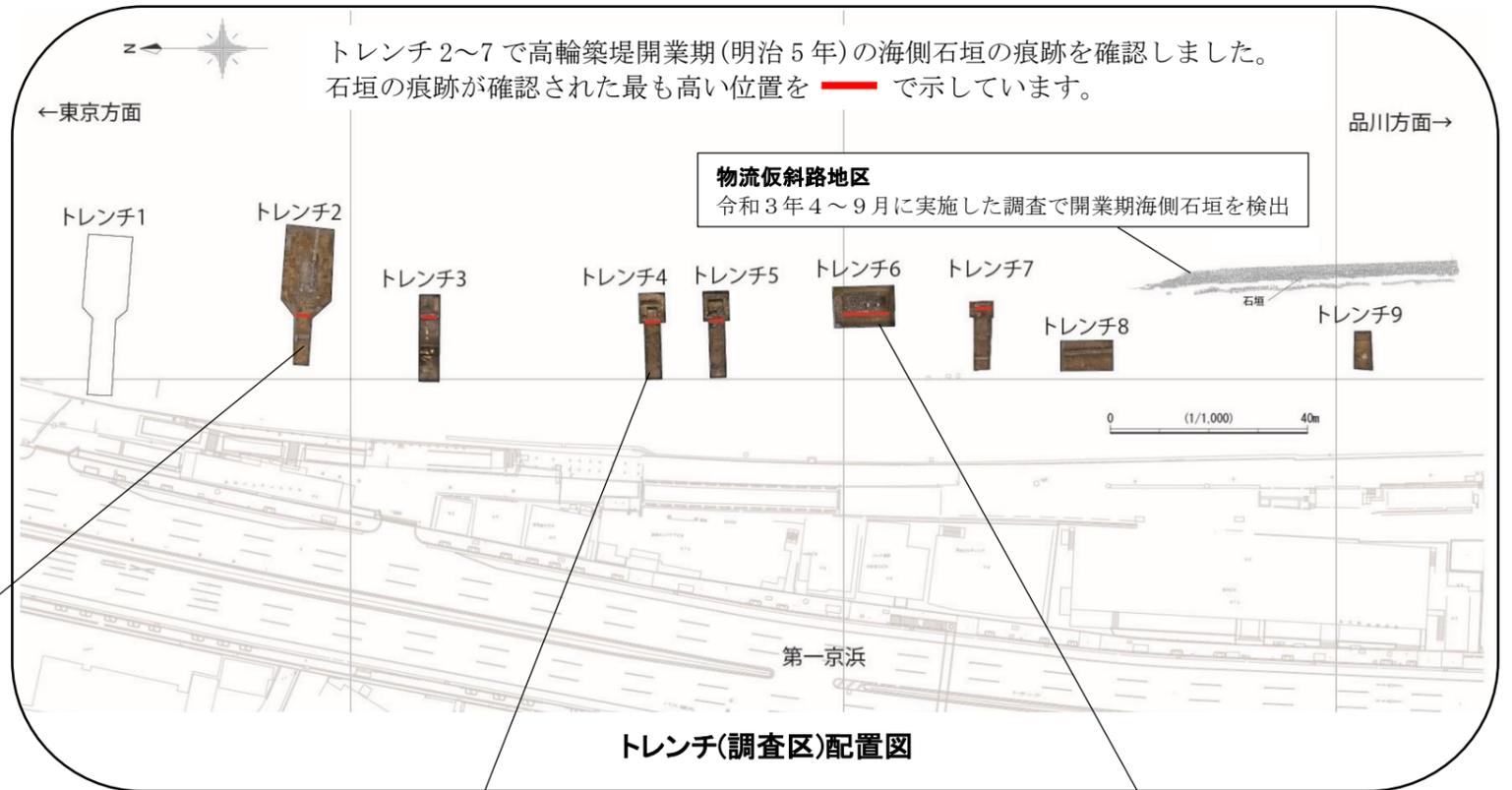
確認調査は、高輪築堤跡の残存状態を確認するために令和6年9月から開始し、現在も調査を継続しています。対象地にトレンチ(調査区)を9箇所設定しており、今回の速報ではそのうちの3箇所検出された遺構についてご報告します。



## 高輪築堤跡の発見範囲と調査位置

確認調査の対象地は、JR 東日本がまちづくりを推進している TAKANAWA GATEWAY CITY 第II期エリア(5・6街区)です。

現地表面から50~70cm程度で、高輪築堤跡の盛土が確認されました。現在調査を行っているトレンチではすべて同様の深さで盛土が確認されています。



トレンチ(調査区)配置図



トレンチ2 開業期海側石垣検出状況(東から撮影)

下から胴木、根石、石垣5段を確認しました。上部の築石は残っておらず、裏込めの石が露出しています。トレンチ壁面の様子から、海砂、白色粘土、ローム土を用いて海側から埋め立てている状況が確認されました。



トレンチ4 開業期海側石垣検出状況(東から撮影)

現地表面から約2mまでの深さで確認を行った結果、開業当初の石垣1列分が確認されました。それより下では裏込め石を検出しています。



トレンチ6 開業期海側石垣検出状況(北から撮影)

トレンチ4の検出状況と類似して、石垣1列とその下は裏込め石が露出した状態を確認しました。

※本調査成果は速報であり、今後の調査の進捗等により、内容に変更が生じる可能性があります。